

# 地域定住促進に向けた「地域生活価値」を構成する要因と構造の分析

## 背景と目的

- 人口減少が進む中、どのようにして地域定住を図るかが重要な課題の一つです。
- ある人が「その地域に住み続けたい」と思う背景には、利便性などの要素の他に、地域でのつながりなど、いろいろな要素が合わさった「その地域で暮らすことの価値（地域生活価値）」が存在していると考えられます。
- 本研究では、この「地域生活価値」を構成する要因とそれらの関係の構造を明らかにすることを目的とします。

## 成果

### A. 「地域生活価値」の要因の抽出

- 世界中で行われている、豊かさや幸福度に関する研究では、多くが「物質的な豊かさ・環境」「経済」「教育・心理」「健康」「社会」の要素から評価していることがわかりました。
- 聞き取り調査では、「貨幣を介さないもののやりとり」や「地域の中での役割」に関する要素も関係していると考えられました。

### B. 「地域生活価値」構造のモデル構築

- 「地域生活価値」構造と要因についての仮説を構築し、その検証データを得るためのアンケートを富良野市と南富良野町で実施しました。
- アンケート結果を用いてロジスティック回帰分析を行い、要因候補を絞り込みました(表1)。
- その結果を反映して仮説モデルを改良し、共分散構造分析によって、それが統計的に有意なモデルであることを確認しました(図2～3)。

### C. 「地域生活価値」構造からわかったこと

- 「地域内の人間関係」と「生活環境の客観的要素」が、直接的に「地域生活価値」を高められる要因であり、「経済レベル」は間接的な効果と考えられました。経済性や利便性だけではない「人間関係」の要因が「地域生活価値」に影響していることが示されました。
- 「地域生活価値」が高められると、「地域内互助の居心地」「住み続け意向」「主観的幸福度」「総合的住環境満足度」が高まり、結果として地域の持続性が高まると考えられました。

## 成果の活用

- 本研究で示した地域生活価値の概念と構造は、集落評価の一つの観点として地域研究に活用されます。

## 1. 既往成果と現地調査に基づく「地域生活価値」構造の仮説構築

- 幅広い分野の既往研究のレビューと地域での聞き取り調査
- 「地域生活価値」の要因を抽出
- 各要因の間の因果関係の構造について仮説を構築

## 2. 「地域生活価値」の構造の解明

- 仮説に基づいて、アンケートを設計し実施する
- ロジスティック回帰分析により、要因の絞り込みを行う
- 絞り込まれた要因を使って、改良版の仮説を構築し、共分散構造分析(統計分析)によって検証する
- 得られた統計モデルの示す意味を考察し、実際の集落再編の議論において役立つ知見を抽出する

図1 研究フロー

表1 ロジスティック回帰分析で絞り込んだ要因

	富良野市		南富良野町	
	オッズ比	P 値	オッズ比	P 値
総合的な住環境の満足度	1.4297	p < 0.001**	1.7231	p < 0.001**
地区の中で知っている人	1.3243	0.0193*	1.8023	0.0013**
現在の住宅の性能	1.3042	p < 0.001**	1.3363	0.0054**
性別	0.4868	p < 0.001**	0.3393	p < 0.001**
運転免許有無	1.5777	0.0250*	-	-
付き合いの程度	1.3031	0.0173*	-	-
主観的幸福度(平均)	1.2590	0.0237*	-	-
携帯電話のつながりやすさ	0.8840	0.0357*	-	-
スポーツ趣味参加	0.8561	0.0175*	-	-
街並みや景観	0.8405	0.0291*	-	-
地区内互助の居心地	-	-	2.1064	p < 0.001**
地区の中で知っている人	-	-	1.8023	0.0013**
娯楽施設への行きやすさ	-	-	1.5324	0.0016**
学校、病院等の公的機関など	-	-	1.4155	0.0235*
通勤のしやすさ(圃場含む)	-	-	0.8183	0.0506
公共交通の便利さ	-	-	0.7603	0.0225*
除雪で助けてもらっている	-	-	0.4806	0.0057**

\*:p<0.05, \*\*:p<0.01

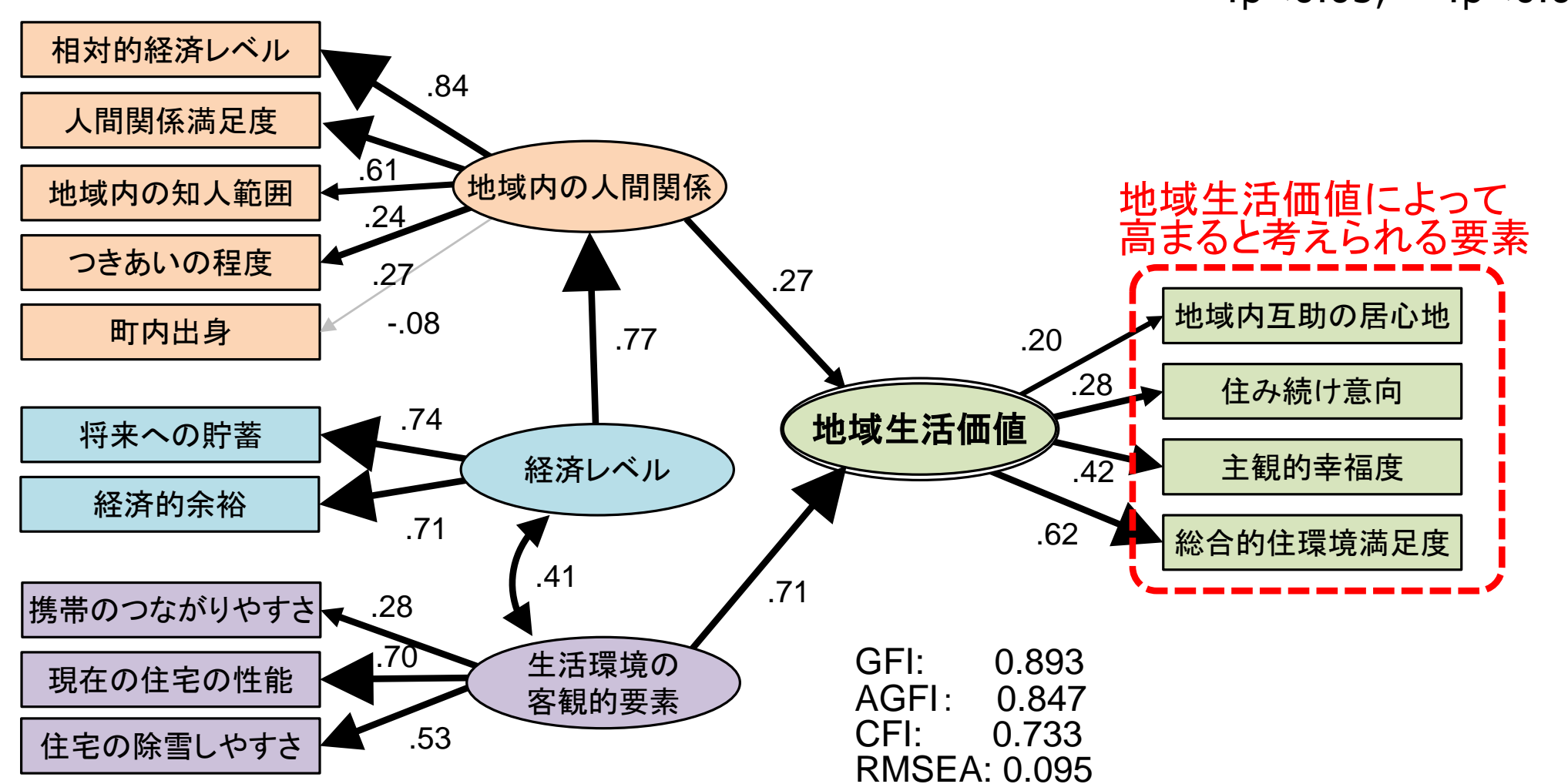


図2 「地域生活価値」構造のモデル(富良野市の例)

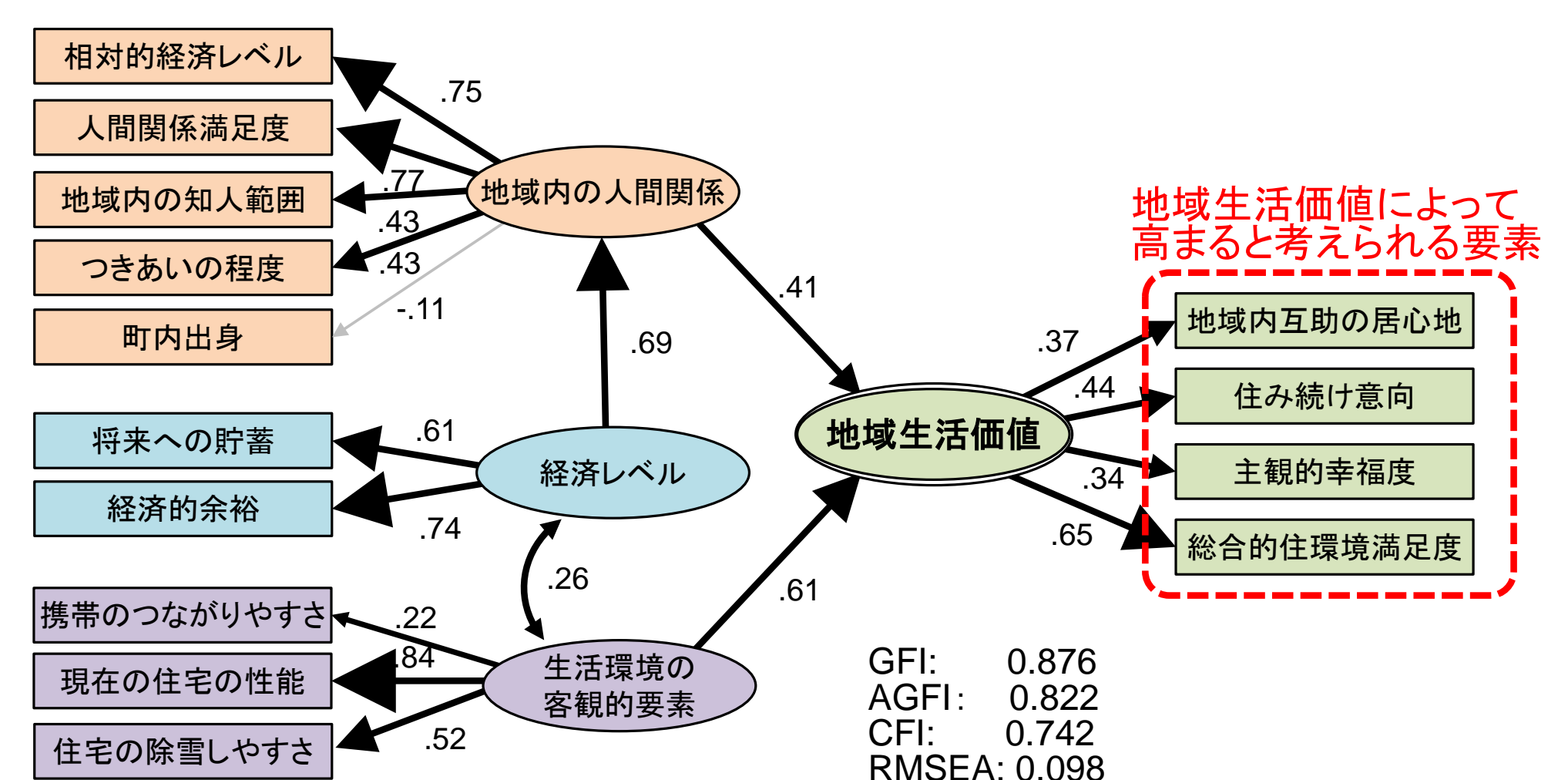


図3 「地域生活価値」構造のモデル(南富良野町の例)